

令和四年度 事業報告書

令和四年4月1日から令和五年3月31日まで

特定非営利活動法人 Chance For All

1 事業の成果

足立区梅島、西新井、千住大橋、綾瀬（二箇所）、六町、関原、墨田区曳舟、押上にて学童保育施設CFAKidsを運営。足立区関原地域にて、駄菓子屋irodoriを運営。墨田区にて遊び場事業を実施。学生チームによる、フリーペーパーの作成及び配布を行う。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額 (千円)
学童保育事業	足立区、墨田区にて民間学童保育CFAKidsを運営	放課後及び小 学校の長期休 み期間	足立区 墨田区の各校 舎	職員20名 学生ボラ ンティア 33名	こども319名 その保護者	137,816
駄菓子屋事業	足立区関原地域にて、フリースペース併設型の駄菓子屋を運営	月～金 15:00-19:00 土日 13:00-18:00	足立区関三 通り商店街内	学生ボラ ンティア 約77名	こども延約1 2,768名	1,748
遊び場事業	墨田区にてこどもが自由に遊べる遊び場づくり	毎月1回日曜 日	墨田区千葉大 学墨田キャン パス	地域ボラ ンティア 約15名	こども延約1, 520名	2,402
地域情報誌	地域の子育て世代に特化した、地域情報の発信	発行1回/年	足立区内各所	学生ボラ ンティア 約23名	8,000部を配 布中	100

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額 (千円)
日本放課後学会	研究者と実践者が交流し、放課後の価値を客観的に発信するための学会を設立し、全国から100名以上の研究者や経営者が参加している。				
放課後児童指導員研修	日本放課後児童指導員協会の資格制度の運用と事務局をCFAが担う。		東京都及びオ ンライン	1名	150

(活動実績)

●決算について

計画通り黒字で着地した。一方で、学童保育事業以外の事業にリソースを割いたため学童保育事業における伸長はなく、また物価上昇により数百万円のコスト上乘せとなった。2023年度からは値上げを実施するため利益率は向上する予定。また、学童保育事業以外の事業も黒字化を目指す。

●学童保育事業について

足立区7校舎、墨田区2校舎合計9校舎の運営を行い、総勢319名のこどもたちが利用。

自分たちで放課後の過ごし方を考えていく過ごし方の一つとして、4年生以上のこどもたちは「アドバンス」として活動。より主体的な関わり方をしていくことができるようになった。アドバンスのこどもたちの中から各校舎1名ずつ有志をつのり「運営委員」としてCFAKidsでのイベントや生活について考える。遠足の企画や各校舎に掲示するおたより「運営委員通信」の作成、放課後学会においてCFAKidsについての発表などの活動を行う。

またコロナにより2年間開催できていなかった、こどもたちや保護者と一緒に夕飯にカレーを食べる「カレーの会」を復活。スパイスカレー屋の立ち上げ準備を行っている元職員より調理の協力を得て、全9校舎にて1回ずつ開催した。

●well-beingアセスメントの開発と実施

CFAが大切にしてきた「こどもたちのwell-being」を客観的に測定するためのセルフアセスメントを開発実施した。今後、放課後学会等の活動を通じて全国に拡げていく予定。

●学生チームについて

昨年在籍人数40名程だった学生ボランティアチームは、年間通すと130名以上が在籍。また、あそび大学やサマーキャンプなど学生チーム以外の単発で活動したボランティアも含めると、延べ約3,397人のボランティアが活動した。2020年度10名程度、2021年度約1,800名、2022年度約3,400人とボランティアの数が飛躍的に増加している。活動の幅が広がったことで、NHK、日テレ、フジテレビなどのキー局や全国紙、地方紙など数十のメディアに取り上げられた。2023年度からは専属で職員を一名配置し、学生チームの活動の黒字化と活動自体のさらなる発展を目指している。

●駄菓子屋事業について

昨年度は人員不足により火曜日と金曜日が定休日であったが、今年度から週7日開店することができるようになる。毎月約1,000人以上のこどもたちが利用しており、年間で12,768人のこどもたちが利用した。夏祭りなどのイベント開催や外部に出向いて駄菓子の販売やこどもたちとの交流を行う出張販売も行っていることを考えると、更に多くのこどもたちにリーチし体験や交流をする機会につながったと考えられる。リーダーに依存していた組織体制からチームで動く組織体制へ移行。ビジョンの実現に向け、より学生たちが自分たちで考え実現していく仕組みを構築してきている。

●あそび大学について

千葉大学環境デザイン研究室、墨田区の社会教育団体である一般社団法人SSK、CFAKidsの保護者でもありデザイナーでもあるSeki design Lab.と連携し、毎月1回日曜日に開催。年間で約1,520名のこどもたちが訪れる遊び場をつくる。また夏休み期間中には、なつのあそび大学企画として「こどもの国」と称し、こどもたちが自分たちで自分たちの国を作る企画を実施。企画メンバーのこどもたちと国づくりから準備を行った。

活動資金として、ふるさと納税を利用したガバメントクラウドファンディングを実施。8月～12月の期間で152名の方々からの支援を受け2,372,385円の寄付金を集める。ロート製薬様より、令和5年度なつのあそび大学へのご寄付をいただく。

最初は30名ほどだった参加者が今では毎回200名を超えており、CFAの職員で運営していたあそび大学も毎回30名前後のボランティアが参加してくれている。また、あそび大学の報告会には区長を始めとした区の要職者が揃って参加し、墨田のこどもたちのこれからを考える会には70名以上の地域の教育関係者が参加した。墨田区の中では知名度が高くなかったが、この一年で大幅に向上した。URと千葉大学とCFAで曳舟駅の駅前再開発事業のビジョン策定を行っていくなどより地域に密着した団体となった。

●結-むすびめ-について

孤育ての悩みに寄り添うことを目的とし、保護者に向けた情報発信を行う学生のメディアチームを発足。フリーペーパーの作成を行い、8000部を作成。現在足立区各所に配布中。印刷費用は足立区の助成金を学

生たちが申請し、資金獲得を行った。

●こどもの居場所レポート作成

こどもたちのwell-being調査を行うため、駄菓子屋irodoriに来訪したこどもたちにヒアリング形式のアンケート調査を実施。こどもたちの放課後の過ごし方や居場所、友達とのつながり、忙しさなどについてヒアリングを行い、135名の回答を得る。既にirodoriに来ている子たちのため、自分の意思で放課後の過ごし方を決められている子が多い一方、「自分のことは好きではない。バカだから。」「将来何ができるかわからないから、楽しみではない」などの回答もあった。これらの回答を分析したこどもたちのwell-beingレポートを作成。印刷発行費の獲得のためクラウドファンディングを行った。124名の方々より、853,000円のご寄付をいただいた。現在最終稿を作成中。6月中の完成と発送を目指す。

●チャリティーコンサートの実施について

CFA職員が団長を務める楽団によるチャリティーコンサートを実施。吹奏楽部出身の職員も参加し楽曲を演奏する。日頃お世話になっている地域の方々にも招待状を配布し、ご来場いただいた。迫力ある演奏は、小学校で金管バンドに所属するこどもたちだけでなく、初めてブラスバンドの生の演奏を聴くこどもたちにとっても貴重な機会につながった。演奏に感動し涙が流れたとアンケートに書く保護者もいた。また、来年度入会する家庭も来場し、新年度に向けた顔合わせの機会ともなった。当日は寄付金を集める活動も行ったが、来場者の方々より172,124円のご寄付をいただいた。

●日本放課後学会の設立について

岡山大学の中山准教授らとともに設立（CFA代表の中山が設立事務局長を務め、現在は副会長を務める）これまで学童、塾、習い事、放課後デイ、部活など業界別に業界団体を作って、バラバラに活動してきたものを「学校のような義務的な時間でもなく、家庭でもない。こどもたちのための時間」としての放課後について研究するために発足した。研究者と実践者が出会い、相互に協力するためのハブとしての役割を目指している。3月19日（日）の設立記念大会では全国から200名近くの研究者、実践者が集い、こども家庭庁からも大きな期待を寄せられている。

●放課後児童指導員研修の実施

代表の中山が理事を務める日本放課後児童指導員協会の資格研修の実施をCFAが担うこととなり、有識者を招いて四日間の研修を行った。放課後児童支援員の質の向上に直接的につながるものであり、今後につなげていきたい。